

令和2年度

(令和元年10月～令和2年9月)

環境経営レポート

令和2年12月20日 作成

山崎機工株式会社

目 次

項 目

目次	2
1.会社・事業の概要	3～4
2.環境経営方針	5
3.エコアクション 21 実施体制	6
4.環境保全活動の実践	7
① 環境への負荷低減目標と実績	7～10
二酸化炭素排出量に関する項目	
総廃棄物排出量の削減	
総排水量の削減	
② 営業拠点別主要指標	11
③ 環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）	12
5.環境への負荷低減のための具体的取組と評価	
・次年度の取組内容	13～14
6.緊急事態への準備、及び対応	14
7.環境関連法規への違反・訴訟等の有無	14
8.代表者による全体評価と見直しの結果	15

1. 会社・事業の概要

- 事業所名 山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均
- 本社所在地 富山県富山市針原中町 503 番地
- 関連事業所 入善営業所 富山県下新川郡入善町道古 59
高岡営業所 富山県高岡市宝来町 824
金沢営業所 石川県白山市小上町 112
- 対象範囲 全組織・全活動を認証・登録の対象範囲とする
- 創業・設立 昭和 23 年 11 月 創業 / 昭和 34 年 12 月 設立
- 資本金 45,000 千円
- 決算期 9 月
- 事業内容 無人化・省力化システムをはじめとする産業機械・工作機械
及び周辺機器類・その他物流システム用品の総合商社
- 事業所規模

項目		H28年9月期	H29年9月期	H30年9月期	R元年9月期	R2年9月期
売上高 (百万円)	本社	2,827	2,595	2,767	2,759	1,968
	入善	733	648	615	677	480
	高岡	711	665	966	1,131	836
	金沢	306	410	407	434	319
従業員 (人)	本社	31	30	29	30	29
	入善	7	7	7	7	6
	高岡	6	6	6	7	7
	金沢	6	5	5	5	4
床面積 (㎡)	本社	1998	1,998	1,998	1,998	1,998
	入善	364	364	364	364	364
	高岡	168	168	168	168	168
	金沢	161	161	161	161	161

■環境保全関係の最高責任者・環境管理責任者・推進委員及び連絡先

最高責任者	山 崎 均	代表取締役社長
環境管理責任者兼総務課推進委員長	蜷 川 士 郎	総務課課長
業務課推進委員長	舟 崎 俊 一	業務課課長
営業部推進委員長	板 木 平 雄 二	本社営業部取締役営業部長
営業部推進委員長	山 崎 和 哉	本社営業部取締役
営業部推進副委員長	奥 井 裕 二	本社営業部マネージャー
営業部推進副委員長	永 森 聡 志	本社営業部グループリーダー
営業部推進副委員長	加 藤 弘 康	本社営業部グループリーダー
営業部推進委員長	藤 木 雄 介	入善営業所所長
営業部推進委員長	湊 裕 也	高岡営業所所長
営業部推進委員長	赤 井 義 紀	金沢営業所所長

T E L 076-451-8001 F A X 076-451-8855

E-mail : soumu@yamazaki-kiko.com

URL <http://www.yamazaki-kiko.com>

2. 環 境 経 営 方 針

〔環境理念〕

山崎機工株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

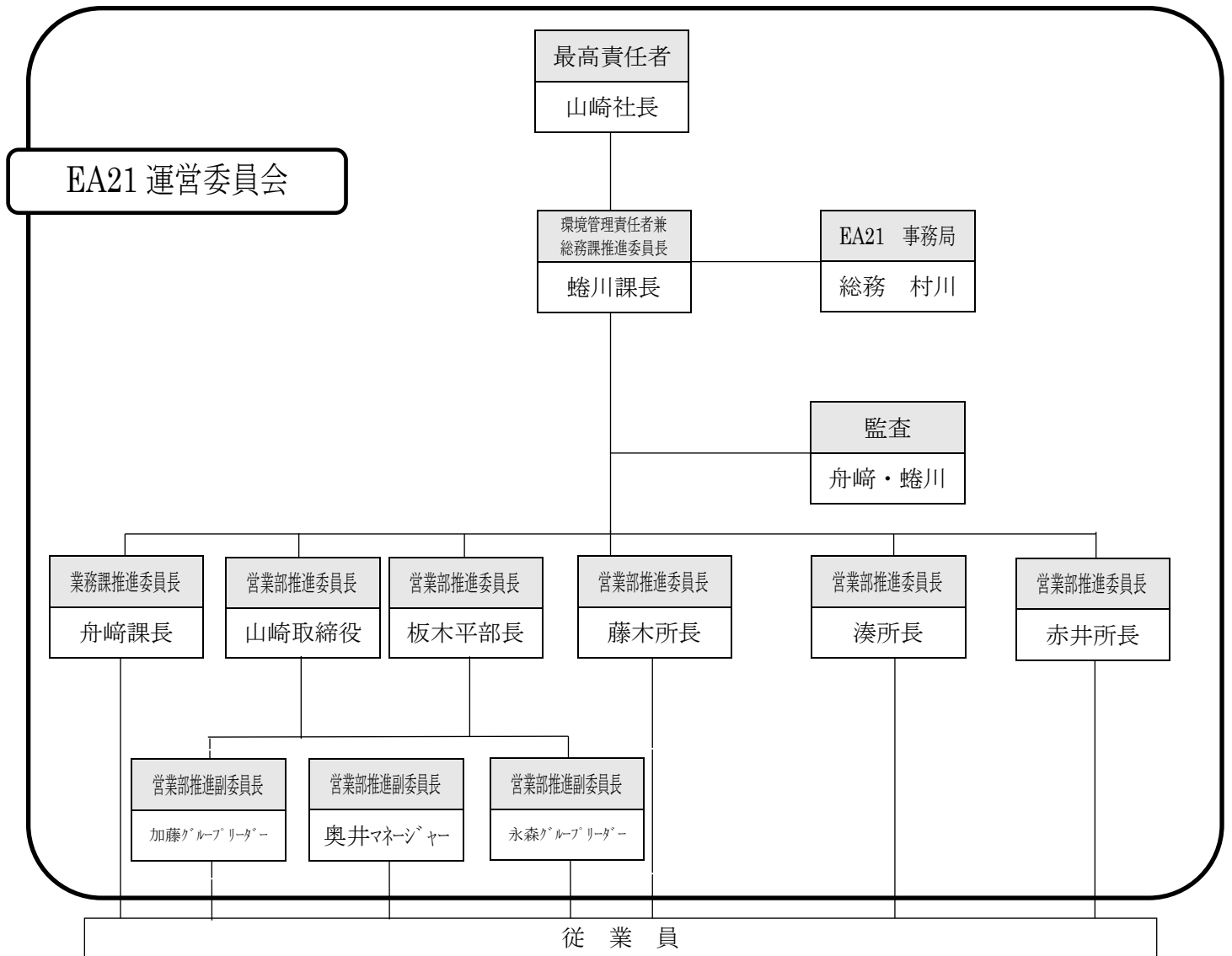
〔環境方針〕

1. 企業活動が環境に与える影響を的確に捉え、可能な範囲で環境目的・目標を定めて、環境保全活動の質の継続的な向上を図る。
2. 環境関連の法律、規制などを遵守し、さらに社内ルールを定めて一層の環境保全に取り組む。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物、排水量の削減に企業活動の全ての領域で取り組む。
4. オゾン層破壊物質、地球温暖化物質、有害物質等の環境に負荷を与える物質を含有する製品・部品については、可能な限り代替商品の採用・販売等により削減する。
5. 環境に関する社会活動により、地域社会に貢献する。
6. 環境教育や社内広報活動等を実施し、従業員の環境基本方針の理解と、環境に関する意識向上を図る。
7. 環境管理の実施状況については環境活動レポートを作成し公開する。

平成 20 年 6 月 28 日 作成
令和 元年 5 月 31 日 改訂

山崎機工株式会社
代表取締役社長 山崎 均

3. エコアクション21 実施体制



- 最高責任者** 環境マネジメントを行っていく上で、全体的な取組状況について把握・評価し、必要な指示をする。
- 環境管理責任者** エコアクション21の計画や目標を構築・運用し取り組み状況を最高責任者に報告する。環境活動レポートを取りまとめる。
- 推進委員長** 環境管理責任者をサポートし、各部署において環境活動計画を実行する。
- 推進副委員長** 推進委員長をサポートし、各推進担当者への指示、アドバイスをを行う。
- 従業員** 推進副委員長及び運営委員責任者より指示・アドバイスを受け、各項目毎の環境活動計画を推進実行する。

※EA21 運営委員会は状況を見ながら都度召集する。個別推進項目には、担当者以外に運営委員のスタッフが必ず責任者として入るものとする。

4. 環境保全活動の実践

①環境への負荷低減目標と実績

当期は平成29年9月期の実績数値を基準年としました。

当期間中の購入電力排出係数については、平成30年北陸電力株式会社調整後排出係数0.526kg-CO₂/kwhを適用し、目標達成の判定基準は下記表によるところとしました。

尚、化学物質等の使用はありません。

目標達成の判定基準	◎	達成率 120%以上
	○	達成率 100~120%未満
	△	達成率 80~100%未満
	×	達成率 80%未満

二酸化炭素排出量に関する項目

項目 (単位)	所課	【基準年】 H29.9期 実績	R2.9期 目標 (基準年比削減率)	R2.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)		
						R3.9	R4.9	R5.9
電気 使用量	本社	33,354kwh	38,000kwh (+13.9%)	36,722kwh (+10.1%)	○ 103.4%	35,500kwh (+6.4%)	35,000kwh (+4.9%)	34,800kwh (+4.3%)
	入善	6,142kwh	6,000kwh (△2.3%)	4,948kwh (△19.4%)	○ 117.5%	4,980kwh (△18.9%)	4,950kwh (△19.4%)	4,900kwh (△20.2%)
	高岡	5,962kwh	5,950kwh (△0.2%)	3,866kwh (△35.2%)	◎ 135.0%	5,000kwh (△16.1%)	4,900kwh (△17.8%)	4,800kwh (△19.5%)
	金沢	2,780kwh	2,620kwh (△5.8%)	2,688kwh (△3.3%)	△ 97.4%	2,560kwh (△7.9%)	2,550kwh (△8.3%)	2,500kwh (△10.1%)
	全社	48,238kwh	52,570kwh (+9.0%)	48,224kwh (△0.02%)	○ 108.3%	48,040kwh (△0.4%)	47,400kwh (△1.7%)	47,000kwh (△2.6%)
灯油 使用量	本社	1,583ℓ	680ℓ (△57.0%)	0ℓ (△100.0%)	◎ —	200ℓ (△87.4%)	200ℓ (△87.4%)	200ℓ (△87.4%)
	入善	818ℓ	800ℓ (△2.2%)	600ℓ (△26.7%)	◎ 125.0%	600ℓ (△26.7%)	600ℓ (△26.7%)	600ℓ (△26.7%)
	高岡	580ℓ	580ℓ (±0%)	500ℓ (△13.8%)	○ 113.8%	580ℓ (±0%)	580ℓ (±0%)	580ℓ (±0%)
	金沢	510ℓ	495ℓ (△2.9%)	350ℓ (△31.4%)	◎ 129.3%	348ℓ (△31.8%)	345ℓ (△32.4%)	343ℓ (△32.7%)
	全社	3,491ℓ	2,555ℓ (△26.8%)	1,450ℓ (△58.5%)	◎ 143.2%	1,728ℓ (△50.5%)	1,725ℓ (△50.6%)	1,723ℓ (△50.6%)

項目 (単位)	所課	【基準年】 H29.9期 実績	R2.9期 目標 (基準年比削減率)	R2.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)		
						R3.9	R4.9	R5.9
LPG 使用量	本社	40.57kg	28.57kg (△29.6%)	25.67kg (△36.7%)	○ 110.2%	25.88kg (△36.2%)	25.0kg (△38.4%)	24.5kg (△39.6%)
	入善	7.85kg	3.31kg (△57.8%)	0.60kg (△92.4%)	◎ 181.9%	1.66kg (△78.9%)	1.50kg (△80.9%)	1.30kg (△83.4%)
	高岡	2.94kg	2.90kg (△1.4%)	4.04kg (+37.4%)	× △60.7%	3.31kg (+12.6%)	3.00kg (+2.0%)	3.00kg (+2.0%)
	金沢	2.40kg	1.97kg (△17.9%)	1.37kg (△42.9%)	◎ 130.5%	1.35kg (△43.8%)	1.30kg (△45.8%)	1.30kg (△45.8%)
	全社	53.76kg	36.75kg (△31.6%)	31.68kg (△41.1%)	○ 113.8%	32.20kg (△40.1%)	30.80kg (△42.7%)	30.10kg (△44.0%)
ガolin 使用量	本社	20,793ℓ	19,250ℓ (△7.4%)	18,413ℓ (△11.4%)	○ 104.3%	19,000ℓ (△8.6%)	18,500ℓ (△11.0%)	18,500ℓ (△11.0%)
	入善	5,714ℓ	5,350ℓ (△6.4%)	5,678ℓ (△0.6%)	△ 93.9%	5,500ℓ (△3.7%)	5,400ℓ (△5.5%)	5,300ℓ (△7.2%)
	高岡	7,619ℓ	7,600ℓ (△0.2%)	7,776ℓ (+2.1%)	△ 97.7%	7,500ℓ (△1.6%)	7,500ℓ (△1.6%)	7,500ℓ (△1.6%)
	金沢	4,192ℓ	4,080ℓ (△2.7%)	3,621ℓ (△13.6%)	○ 111.3%	3,625ℓ (△13.5%)	3,620ℓ (△13.6%)	3,615ℓ (△13.8%)
	全社	38,318ℓ	36,280ℓ (△5.3%)	35,488ℓ (△7.4%)	○ 102.2%	35,625ℓ (△7.0%)	35,020ℓ (△8.6%)	34,915ℓ (△8.9%)

項目 (単位)	所課	【基準年】 H29.9期 実績	R2.9期 目標 (基準年比削減率)	R2.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定
総二酸化炭素 排出量 (kg-CO ₂)	本社	69,883kg-CO ₂	66,383kg-CO ₂ (△5.0%)	62,111kg-CO ₂ (△11.1%)	○ 106.4%
	入善	18,558kg-CO ₂	17,579kg-CO ₂ (△5.3%)	17,272kg-CO ₂ (△6.9%)	○ 101.7%
	高岡	22,278kg-CO ₂	22,215kg-CO ₂ (△0.3%)	21,331kg-CO ₂ (△4.3%)	○ 104.0%
	金沢	12,472kg-CO ₂	12,083kg-CO ₂ (△3.1%)	10,691kg-CO ₂ (△14.3%)	○ 111.5%
	全社	123,191kg-CO ₂	118,260kg-CO ₂ (△4.0%)	111,405kg-CO ₂ (△9.6%)	○ 105.8%

総廃棄物排出量の削減

項目 (単位)	所課	【基準年】 H29.9期 実績	R2.9期 目標 (基準年比削減率)	R2.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)		
						R3.9	R4.9	R5.9
紙類	本社	4,070kg	3,300kg (△18.9%)	4,280kg (+5.2%)	×	3,200kg (△21.4%)	3,200kg (△21.4%)	3,150kg (△22.6%)
	入善	1,481kg	1,490kg (+0.6%)	955kg (△35.5%)	◎	1,450kg (△2.1%)	1,430kg (△3.4%)	1,400kg (△5.5%)
	高岡	890kg	800kg (△10.1%)	840kg (△5.6%)	△	830kg (△6.7%)	820kg (△7.9%)	810kg (△9.0%)
	金沢	549.5kg	500kg (△9.0%)	622kg (+13.2%)	×	638kg (+16.1%)	630kg (+14.6%)	620kg (+12.8%)
	全社	6,990.5kg	6,090kg (△12.9%)	7,232kg (+3.5%)	△	6,118kg (△12.5%)	6,080kg (△13.0%)	5,980kg (△14.5%)
事業系 一般廃棄物	本社	715.6kg	400kg (△44.0%)	364.7kg (△49.0%)	○	320kg (△55.3%)	320kg (△55.3%)	320kg (△55.3%)
	入善	27.2kg	33kg (+21.3%)	12.5kg (△54.0%)	◎	27kg (△0.7%)	25kg (△8.1%)	22kg (△19.1%)
	高岡	64.3kg	64kg (△0.5%)	60.5kg (△5.9%)	○	50kg (△22.2%)	50kg (△22.2%)	50kg (△22.2%)
	金沢	63.3kg	62kg (△2.1%)	47.6kg (△24.8%)	◎	48kg (△24.2%)	47kg (△25.8%)	46kg (△27.3%)
	全社	870.4kg	559kg (△35.8%)	485.3kg (△44.2%)	○	445kg (△48.9%)	442kg (△49.2%)	438kg (△49.7%)
産業 廃棄物	本社	14.5kg	204kg (+1,306.9%)	213.8kg (+1,374.5%)	△	204kg (+1,306.9%)	203kg (+1,300.0%)	202kg (+1,293.1%)
	入善	38.5kg	42kg (+9.1%)	9.1kg (△76.4%)	◎	11.5kg (△70.1%)	10kg (△74.0%)	9kg (△76.6%)
	高岡	19.5kg	19.4kg (△0.5%)	17.3kg (△11.3%)	○	17.5kg (△10.3%)	17.3kg (△11.3%)	17kg (△12.8%)
	金沢	0.235kg	0.08kg (△66.0%)	0.055kg (△31.3%)	◎	0.04kg (△50.0%)	0.04kg (△50.0%)	0.04kg (△50.0%)
	全社	72.735kg	265.48kg (+265.0%)	240.255kg (+230.3%)	○	233.04kg (+220.4%)	230.34kg (+216.7%)	228.04kg (+213.5%)

項目 (単位)	所課	【基準年】 H29.9期 実績	R2.9期 目標 (基準年比削減率)	R2.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定
廃棄物 総排出量 (kg)	本社	4,800.1kg	3,904kg (△18.7%)	4,858.5kg (+1.2%)	×
	入善	1,546.7kg	1,565kg (+1.2%)	976.6kg (△36.9%)	◎
	高岡	973.8kg	883.4kg (△9.3%)	917.8kg (△5.8%)	△
	金沢	613.035kg	562.08kg (△8.3%)	669.7kg (+9.2%)	△
	全社	7,933.635kg	6,914.48kg (△12.8%)	7,422.6kg (△6.4%)	△

総排水量の削減

項目 (単位)	所課	【基準年】 H29.9期 実績	R2年9期 目標 (基準年比削減率)	R2年9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定	中期目標 (基準年比削減率)		
						R3.9	R4.9	R5.9
生活 用水	本社	137 m ³	135 m ³ (△1.5%)	111 m ³ (△19.0%)	○ 117.8%	145 m ³ (+5.8%)	140 m ³ (+2.2%)	135 m ³ (△1.5%)
	入善	184.0 m ³	139 m ³ (△24.5%)	186.8 m ³ (+1.5%)	× 65.6%	103 m ³ (△44.0%)	100 m ³ (△45.7%)	98 m ³ (△46.7%)
	高岡	18.0 m ³	16.0 m ³ (△11.1%)	16.8 m ³ (△6.7%)	△ 95.0%	16 m ³ (△11.1%)	15 m ³ (△16.7%)	15 m ³ (△16.7%)
	金沢	20.2 m ³	21.0 m ³ (+4.0%)	23.2 m ³ (+14.9%)	△ 89.5%	22.9 m ³ (+13.4%)	22 m ³ (+8.9%)	21 m ³ (+4.0%)
	全社	359.2 m ³	311 m ³ (△13.4%)	337.8 m ³ (△6.0%)	△ 91.4%	286.9 m ³ (△20.1%)	277 m ³ (△22.9%)	269 m ³ (△25.1%)
融雪 装置	本社	1,259 m ³	設定せず	964 m ³ (△23.4%)	—	設定せず	設定せず	設定せず
	入善	574.5 m ³	設定せず	0 m ³ (—)	—	設定せず	設定せず	設定せず
	高岡	116.4 m ³	設定せず	14 m ³ (△88.0%)	—	設定せず	設定せず	設定せず
	全社	1,949.9 m ³	設定せず	978 m ³ (△49.8%)	—	設定せず	設定せず	設定せず

項目 (単位)	所課	【基準年】 H29.9期 実績	R2.9期 目標 (基準年比削減率)	R2.9期 実績 (基準年比削減率)	目標達成 の判定
総排水量 (m ³)	本社	1,396 m ³	—	1,075 m ³ (△23.0%)	—
	入善	758.5 m ³	—	186.8 m ³ (△75.4%)	—
	高岡	134.4 m ³	—	30.8 m ³ (△77.1%)	—
	金沢	20.2 m ³	—	23.2 m ³ (+14.9%)	—
	全社 合計	2,309.1 m ³	—	1,315.8 m ³ (△43.0%)	—

これ以外の取組項目として、電話使用料、コピー機カウント数、紙の使用量、受発注時におけるミスの防止によるロス等の削減に努め、概ね一定の効果をあげることができました。また、倉庫・事務所・営業車における見える化（整理整頓）の実践、各種リサイクルとボランティア活動の推進等、数値には表れないものの社内環境の改善、循環型社会への参加と協力、地域社会への貢献という側面では、当社の企業活動の全ての領域で取り組めたと自負しております。又、当社では各月度毎に重点商品販売企画として、省エネ・高効率商品・工場内の安全維持製品を拡販しました。具体的には産業用ロボットや周辺機器類、超硬切削工具、コロナウイルス対策商品他を全社をあげて販売した結果、お取引先様各社に省エネ商品の最新情報を提供することができ、環境負荷低減に一定の効果があつたと考えています。尚、次年度の取組内容については当年度と同様とします。

②営業拠点別主要指標

これらの記録より令和元年9月期の各営業拠点別主要指標を下記にまとめました。

※構成人員数1人あたり

	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量
本社	H29年9月期	2,442kg-CO ₂	160kg	47 m ³
	H30年9月期	2,558kg-CO ₂	196kg	172 m ³
	R元年9月期	2,314kg-CO ₂	138kg	64 m ³
	R2年9月期	2,142kg-CO ₂	168kg	37 m ³
入善	H29年9月期	2,740kg-CO ₂	221kg	108 m ³
	H30年9月期	2,881kg-CO ₂	260kg	359 m ³
	R元年9月期	2,569kg-CO ₂	219kg	26 m ³
	R2年9月期	2,879kg-CO ₂	163kg	31 m ³
高岡	H29年9月期	3,814kg-CO ₂	162kg	22 m ³
	H30年9月期	3,872kg-CO ₂	160kg	195 m ³
	R元年9月期	3,246kg-CO ₂	130kg	11 m ³
	R2年9月期	3,047kg-CO ₂	131kg	4.4 m ³
金沢	H29年9月期	2,551kg-CO ₂	123kg	4.0 m ³
	H30年9月期	2,677kg-CO ₂	105kg	4.0 m ³
	R元年9月期	2,481kg-CO ₂	109kg	4.0 m ³
	R2年9月期	2,673kg-CO ₂	167kg	5.8 m ³

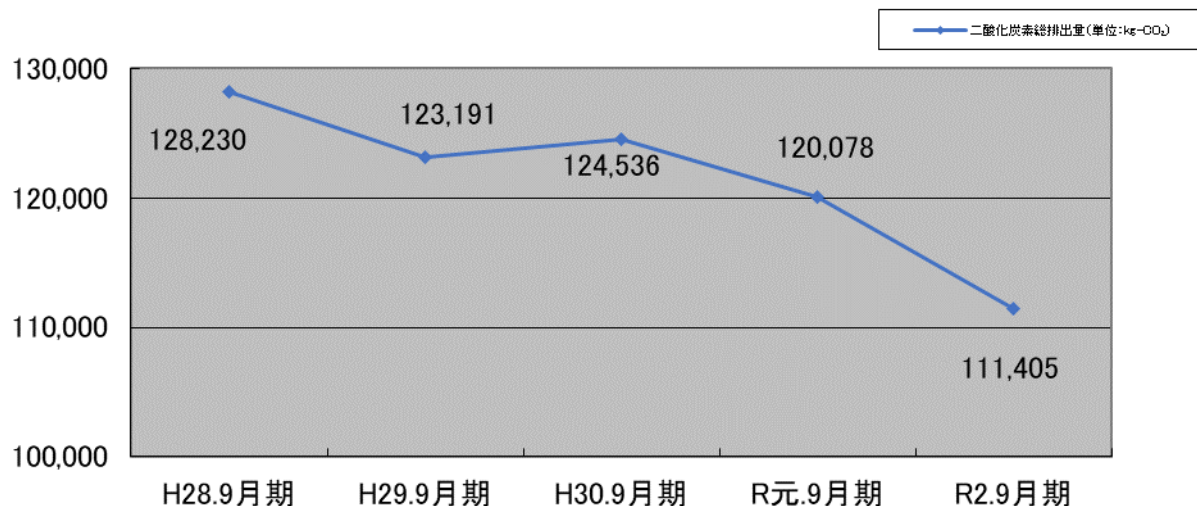
※売上高1百万円あたり

但し、金沢営業所には融雪装置の設備なし

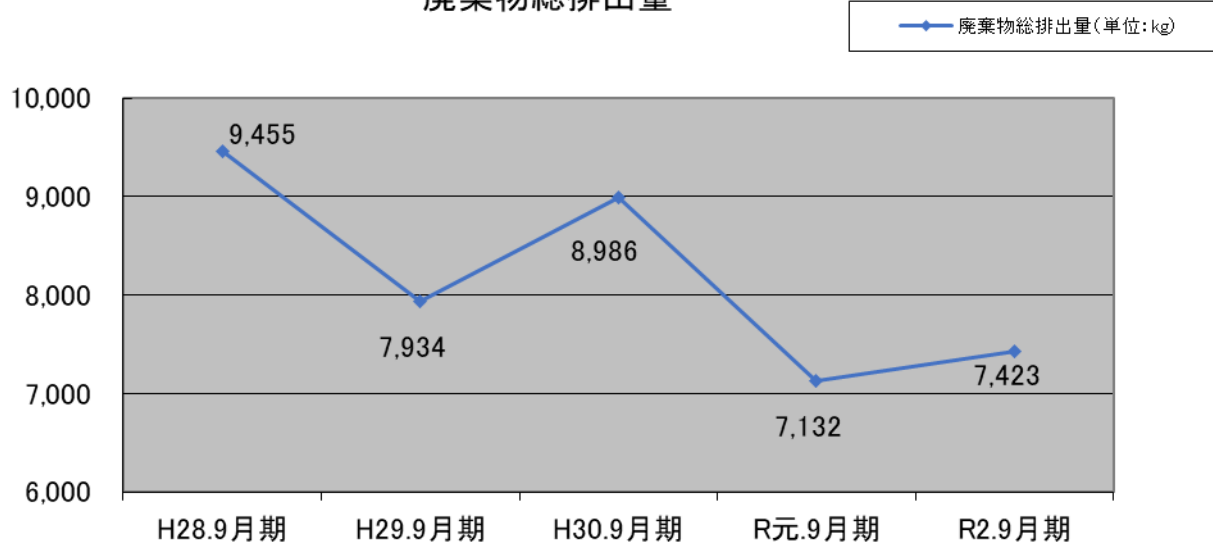
	年度	二酸化炭素排出量	廃棄物排出量	排水量
本社	H29年9月期	28kg-CO ₂	1.8kg	0.5 m ³
	H30年9月期	27kg-CO ₂	2.1kg	1.8 m ³
	R元年9月期	25kg-CO ₂	1.5kg	0.7 m ³
	R2年9月期	32kg-CO ₂	2.5kg	0.55 m ³
入善	H29年9月期	30kg-CO ₂	2.4kg	1.2 m ³
	H30年9月期	33kg-CO ₂	3.0kg	4.1 m ³
	R元年9月期	27kg-CO ₂	2.3kg	0.3 m ³
	R2年9月期	36kg-CO ₂	2.0kg	0.39 m ³
高岡	H29年9月期	34kg-CO ₂	1.5kg	0.2 m ³
	H30年9月期	24kg-CO ₂	1.0kg	1.2 m ³
	R元年9月期	20kg-CO ₂	0.8kg	0.07 m ³
	R2年9月期	26kg-CO ₂	1.1kg	0.04 m ³
金沢	H29年9月期	31kg-CO ₂	1.5kg	0.05 m ³
	H30年9月期	33kg-CO ₂	1.3kg	0.05 m ³
	R元年9月期	29kg-CO ₂	1.3kg	0.05 m ³
	R2年9月期	34kg-CO ₂	2.1kg	0.07 m ³

③環境保全活動の経過推移（全社過去5年のグラフ化）

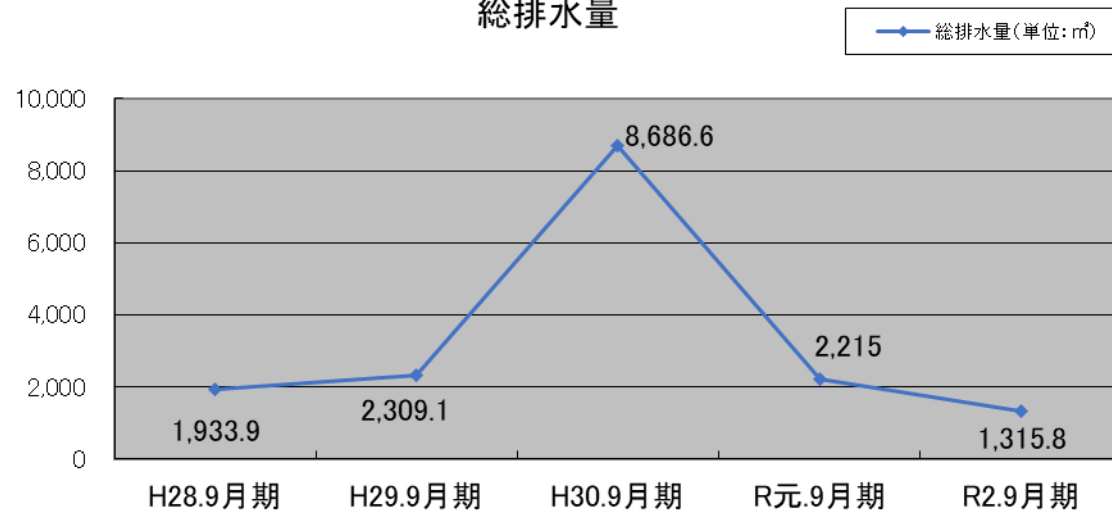
二酸化炭素総排出量推移



廃棄物総排出量



総排水量



5. 環境への負荷低減のための具体的取組と評価・次年度の取組内容

項目	具体的取組	評価
使用 電力量の削減	<ul style="list-style-type: none"> こまめな ON・OFF を心がける。 不要箇所の消灯（トイレ・商談ルーム・倉庫使用时以外の消灯） エアコン使用时ブラインドを下げる エアコン使用时、玄関ドア閉 エアコン・ストーブの最低限の運用（室温：夏 27.5℃ 冬 22℃ 設定） 夏場、屋外の気温が低い時は OFF（夕方～） 蛍光灯のこまめな ON・OFF 外出時、消灯の厳守 昼休み、夜は不要箇所の消灯 自動ドア・倉庫シャッターの最低限の運用 帰宅時、PC とコピーのコンセントを抜く 冬場に業務用ヒーターからファンヒーターへの切換えによる削減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 金沢以外の拠点で目標達成。降雪量が減少したことから融雪装置の稼働率が低下したこと。また、エアコンの運用に留意したことが主要因と考える。高岡はエアコンの更新工事効果か夏季の消費電力が大幅減。
灯油 使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 社内暖房に使用。（但し、極力エアコンを優先） 暖房設定温度 20℃ にあわせて火力調整をする 太陽熱を利用し、晴天時ブラインドを下げない 衣服の調整で暖房対策をする 事務員のみの場合小型ストーブの使用（営業所の場合） 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンとブルーヒーターの温度管理に注意のこと。 本社では前年の残り灯油でシーズンクリア。 寒ければ 1 枚着込む等の自助努力を促して下さい。
L P G 使用量 の削減	<ul style="list-style-type: none"> ガスコンロ使用时は炎を鍋底より内側に設定し蓋をする。 ヤカンの水滴を拭き取ってから火にかける。 使用後はガスの元栓を閉める。 給湯器の種火は、朝以外は使用時のみ点火。 消し忘れがないか朝礼前、朝礼・昼食後にチェックする ティファールの活用 夏場のお茶づくりのタイミング（回数・量）の調整 	<ul style="list-style-type: none"> 特に入善営業所の目標達成率が高かった。
ガソリン 使用量 の削減	<ul style="list-style-type: none"> 「エコドライブ 10 のススメ」の励行 エアコンの適正使用 ガソリン燃費表を記録し、前年同月と比較して燃費への意識向上に努める 重量 20kg 以上の荷物はユーザー直送 車内の不要な荷物（カタログなど）を降ろす 走行距離、平均燃費の月次比較、全体平均燃費を書き込む（上位 3 名を発表しモチベーションアップ） 各自効率の良い営業ルートの確認 ユーザー構内はなるべく歩いて回る 	<ul style="list-style-type: none"> 直送可能な重量物、長尺物はなかったか？
紙類 (廃棄物)	<ul style="list-style-type: none"> FAX、プリンタ用紙等裏紙の再利用 メール活用によるペーパーレス コピー・プリントアウトは内容確認の上判断 段ボールは極力客先での処理を心がけ、納品時にも活用する カタログを取り寄せる時は社内ストックの有無の確認の上取寄せをし、速やかに配布する 過剰梱包をなくすよう、仕入先へ依頼する FAX 通信書の再利用 見積書作成時の入力ミスの削減 段ボール、新聞紙のリユースをする プリンター・コピーの必要性の有無を確認する 古いカタログはメーカーや仕入先に返却する。 カタログ・チラシは極力ユーザーへ配布するよう心掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> 本社と金沢が大きく未達。一部、紙の両面使用が充分でない報告もある。今一度基本に立ち返り廃棄量削減に努めよ。

項目	具体的取組	評価
事業系一般廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル可能なものが事業系一般廃棄物に混入していないか、分別相違していないか確認する。 できるだけ外部よりゴミを持ち込まないように促す 	<ul style="list-style-type: none"> 本社では前々期より事業系一般廃棄物として処理していた廃プラ、ビニール等を産業廃棄物として分別、処理することとし、その結果、産廃の重量は大幅に増加する形となった。一般廃棄物、産廃ともに廃棄量が安定するまでもう1、2年程度様子をみたい。
産業廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 新品納入時、旧商品引き取り要求があればメーカーに引き取ってもらう。 やむを得ず発生したゴミは担当責任者に連絡、判断を仰ぐ。 修理品の引き受け時は、修理不能と判断された場合の対応も考えて交渉する。 エアーパーキン類はエアールを抜く リユース可能な緩衝剤の混入チェック 	<ul style="list-style-type: none"> 入善と金沢は廃プラを一般廃棄物としてカウントしていた。(厳重注意済。R3.9 期からは正しく分類する)
生活用水	<ul style="list-style-type: none"> 社内見廻時、給排水箇所の確認 無駄な水の利用者には即口頭注意 清掃時等のバケツ使用の励行を促す 融雪装置ノズルの清掃・点検(年1回) 蛇口の閉め忘れがないかチェックする 水道メーターのチェック1日1回 週に一度使用量を確認し節水への意識を高める 手洗い、うがい時は水を流しっぱなしにしない 	<ul style="list-style-type: none"> 入善は漏水補修工事を当下期に完了となり、長引いたことから数値上はほとんど反映されず。
融雪装置	<ul style="list-style-type: none"> 融雪装置については従来通り最低限の運用とする。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>冬期間中は天気予報を毎日チェック 降雪時、もしくは降雪が見込まれる時のみ稼働させる。 電源は夜にオン、朝にオフ。 日中は地熱利用による自然融雪を心がける。 センサー感度は常に鈍感。</p> </div>	

6. 緊急事態への準備、及び対応

期中は令和2年3月28日(土)に消火訓練を実施しました。当期は3月27日(土)、予備日9月25日(土)にて実施予定です。

7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に適用される、環境関連法規については、廃棄物処理法、容器包装リサイクル法、大気汚染防止法、道路交通法、自動車リサイクル法、フロン排出抑制法、消防法、各市町村火災予防条例、浄化槽法、家電リサイクル法、グリーン購入法、以上14法令について、遵守状況を検証・確認した結果、取組期間中、環境関連法等への違反・訴訟等はありませんでした。尚、過去5年間にも違反等はなく、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

2020年度当社の売上はコロナ禍の大きな影響を受け前年度比72%と大幅な減収となりました。過去最高売上を記録した前期に対し、CO₂排出量92.8%・廃棄物総排出量104.1%・総排水量59.4%（融雪装置含）と結果に終わりました。廃棄物総排出量が増加した要因では、コロナ対策として全事業所のレイアウト変更を都度実施したことが考えられ、また使用電力量のプラス要因としてテレワーク用にパソコンの増設を実施したことなどの特殊要因が想定されます。次年度に於いては相応の結果が出せるものと考えています。しかしながら部署毎に個別の内容を確認すると、今まで出来ていた単純なことが実施されていない項目が散見されますし、相変わらず表面的、単発的な活動に終始している内容もあります。実施内容の継続的な相互確認や情報交換を積極的に行い、マンネリ化を意識しながら新年度へと繋げていきたいと思えます。

令和 2年 12月

山崎機工株式会社

代表取締役社長 山崎 均